

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：25406

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652100

研究課題名(和文) 日中対照に基づく、若者のネット・ケータイによる情報行動の実証的研究

研究課題名(英文) Research of the information action by net and cellular phone by contrast with Japan and China

研究代表者

友定 賢治 (TOMOSADA, KENJI)

県立広島大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：80101632

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：時間や空間を超えたネットの世界であるが、東京・大阪・広島での調査と中国南京・上海・西安での調査を通じて、ネット用語の広がりには地域差や社会差のあることが分かった。東京では平均的に中心部から周辺部に広がるのに対して、大阪では広がる語に、面白い語といった偏りが見られた。一方中国では教育差が大きくかわっていることが明らかになった。

研究グループのメンバーで、国際会議に二回参加し、アジア・ヨーロッパの研究者とネット用語について議論できた。それぞれの国でもネット用語への関心が高まっており、今後の共同研究への体制作りができたことは大きな成果となった。

研究成果の概要(英文)：We think that Internet exceeded time and space. However it turned out through investigation in Tokyo, Osaka, and Hiroshima, and investigation in China Nanjing, Shanghai, and Hsian that there are regional difference and a social difference in a spread of the net term.

In Tokyo, it spreads from the central part to a neighboring part on the average. In Osaka, "The interesting word" has spread. It became clear in China that an educational difference is a major factor.

The research group's member participated in the international conference twice, and argued with the researcher of Asia and Europe about the net term. The concern about a net term is high and it is a big result that organization to joint research was made.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：ネット用語 ケータイ用語 情報行動 地域性 日中対照

1. 研究開始当初の背景

研究の特徴は、日本とは大きく異なる言語体系、言語政策、経済、文化、社会制度下にある中国の若者との、コミュニケーション行動の対照研究や欧米での研究と連携して、若者語の特徴や、誕生、発展、歴史、あるいはネット・ケータイの使用状況および使用意識の、何が普遍的なもので、何が独自性なのか、どのような規則が潜んでいるかなどを解明することである。

日本では、若者語についての研究は特に90年代に活発に行われている。さらに、ネット用語、携帯用語の研究(田中など)、方言意識の地域性やコミュニケーションの志向性の時代性も陣内・友定らの研究があり、方言と共通語の言語接触による状況についても報告されている(高木など)。

一方、中国においては、若者語の研究は最近になって現れはじめている。中国の高度経済成長に伴い、多くの若者が「娯楽」等の目的をもって、若者語をネットなどで日常的に使用しはじめ、それを研究する動きが、特に南京大学の徐大明教授を中心とする研究チームによって、本格的に始まるようとしている。友定らは、現在南京大学の研究チームと連携し、「日中若者語研究プロジェクト」を結成し、2009年9月に「第一回日中若者語研究ワークショップ」を南京大学で、2010年6月には吉林大学で第二回ワークショップを開催した。日中対照による、若者の情報行動研究を始めている。

ネット・ケータイによる若者のコミュニケーションは、ますますその重みを増しており、最も大事なコミュニケーション手段になっている。むしろ大事なことほどメールで相談するという若者も珍しくはない。最近の調査によると、女子高校生がスマートフォンを見ている時間は、平均して、一日六時間半ということである。

今後ますますネット・ケータイによる情報行動の分析が進められる必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、若者のネット・ケータイによる情報行動における、若者語やネット用語の使用状況・使用意識、コミュニケーションの志向性などに基づいて、若者の情報行動に関する新たな理論提示を目的とするものである。そのために、異なる状況下にある若者の対照研究が必須であり、日本の若者についての調査研究の精度をあげるとともに、異なる言語体系・言語政策、異なる歴

史・経済・文化・社会背景下にある中国の若者との対照研究とともに、欧米で行われている研究とも連携して、目的を達しようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 本研究は日本と中国で若者のネット・ケータイによる情報行動に関する調査を行う必要がある。そのため、まず、23年度に東京と南京で集中調査をして、それを踏まえて調査内容を確定し、24年度、25年度で、共通の調査票を用いて、日本8地点・中国6地点の調査を実施する。インタビュー調査および座談会を開く等の調査方法を取る。

(2) 次に、異なる社会体制、異なる文化、異なる経済成長の背景下における日中若者語の特徴、若者のコミュニケーションの志向性、日中若者の世界観、若者語使用による生活態度、評価等を明らかにするため、アンケート調査、インタビュー調査を実施する。

(3) 平成23年にヨーロッパのSNS研究会に参加する。

(4) 25年度、「若者の情報行動研究国際シンポジウム」を開催し、社会へ発信する。若者の情報行動を、「言語のレベル」「心理のレベル」「社会のレベル」で解明するものであり、社会言語学そのものの理論的発展に寄与することができる。

4. 研究成果

研究成果を大きく三つに分けてあげる。

(1) 日本と中国それぞれ三都市での調査

ネット用語の広がりについて、日中対照的な考察をすべく、日本では東京・大阪・広島三都市、中国では、南京・上海・西安の三都市で調査を行った。その結果、ネット用語の拡散について、東京では、中心部から周辺部に均等に広がっていくのに対し、大阪では、「面白い語」の広がりが目立つという偏りが顕著に見られた。また広島では、東京に比べ、ネット用語の広がりが遅かった。時間や空間を超えたものと考えられやすいネットであるが、それを通じての語の広がりには、地域差が明瞭になった。一方、中国では、ネット用語の認知・広がりについて、三都市ともに、教育レベルの差が大きくかかわっていることが明らかになった。社会的条件が大きく関係していた。

(2) 第一回アジア未来会議での議論

2013年3月にバンコクで開催された、第一回アジア未来会議で、ネット用語に関するセッションが設置され、日本・中国それぞれ三人ずつが発表し、アジア各地から参加した研究者と議論することができた。アジア各国において、若者のコミュニケーションにおけ

るネット・ケータイの重要性は同じように高まっており、ネット用語の研究は重要なテーマであることが確認された。

(3)第11回都市言語研究国際シンポジウムの開催。

2013年8月に広島において、「メディアと言語」をメインテーマとして、標記のシンポジウムを開催した。中国・シンガポール・アメリカ・イスラエルなど外国からの参加が約40名、日本各地からの参加者が約50名で、活発な討論が行われた。都市化に伴うメディアの複雑化とそれに伴う言語の様相は、これからの社会言語学の主要なテーマであり、協力して研究を進めていくことが確認された。上記のアジア未来会議を含め、各国の研究者と強固な協力体制が確立できたのは、大きな成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

- (1) 田中ゆかり・林直樹, ネット系若者ことばの地域差とその背景 首都圏・関西・広島に大学に通う学生とその親に対するアンケート調査から, 語文, 査読なし, 147 輯, 2013, 20-50
- (2) 友定賢治, 現代若者語の研究 ネット・ケータイ用語について, 第一回アジア未来会議論文集, 査読なし, 2013, 1-10, 各論文 USB に収録したもののため頁数なし
- (3) 田中ゆかり, ネット系若者ことばの使用意識 首都圏の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査を中心に, 第一回アジア未来会議論文集, 査読なし, 2013, 1-10, 各論文 USB に収録したもののため通しの頁数なし
- (4) 高木千恵, ネット関連若者ことばの使用意識 関西の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査結果から, 第一回アジア未来会議論文集, 査読なし, 2013, 1-10, 各論文 USB に収録したもののため頁数なし
- (5) 包聯群, 日中蒙若者語対照研究と都市言語研究, 第一回アジア未来会議論文集, 査読なし, 2013, 1-10, 各論文 USB に収録したもののため頁数なし
- (6) 林直樹, ネット系若者ことばの使用意識 首都圏の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査を中心に, 第一回アジア未来会議論文集, 査読なし, 2013 1-10, 各論文 USB に収録したもののため頁数なし

[学会発表](計 5 件)

- (1) 友定賢治, 現代若者語の研究 ネット・ケータイ用語について, 第一回アジア

未来会議, 2013.3.8~3.10, バンコク

- (2) 田中ゆかり, ネット系若者ことばの使用意識 首都圏の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査を中心に, 第一回アジア未来会議, 2013.3.8~3.10, バンコク
- (3) 高木千恵, ネット関連若者ことばの使用意識 関西の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査結果から, 第一回アジア未来会議 2013.3.8~3.10, バンコク
- (4) 包聯群, 日中蒙若者語対照研究と都市言語研究, 第一回アジア未来会議 2013.3.8~3.10, バンコク
- (5) 林直樹, ネット系若者ことばの使用意識 首都圏の大学に通う学生とその親に対するアンケート調査を中心に, 第一回アジア未来会議 2013.3.8~3.10, バンコク [図書](計 件)

[産業財産権]
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
友定賢治 (TOMOSADA KENJI)
県立広島大学・保健福祉学部・教授
研究者番号: 80101632

(2) 研究分担者 ()

研究者番号:

- (3) 連携研究者
田中ゆかり (TANAKA YUKARI)
日本大学・文理学部・教授

研究者番号： 40305503

高木千恵(TAKAKI CHIE)
大阪大学大学院・文学研究科・准教授
研究者番号:50454591

包聯群(BAO LIN)
東京大学大学院・総合文化研究科・学術研
究員
研究者番号:40455861